

原子核三者若手夏の学校

提案説明者: 東 武大 (京大理・素粒子論・D1)

- 日時: 2002年8月1日 ~ 7日
- 会場: パノラマランド木島平
- 参加者数: 300人 (昨年度298人)

夏の学校の目的と意義

素粒子・原子核・高エネルギーの分野の
大学院生が集まる **巨大な研究会**。

2002年度夏の学校で**第48回目**を迎える。

- **教育:**

素粒子論・原子核理論・高エネルギー実験
各パートごとの講義、研究会など。



幅広い知識と柔軟な発想の育成、
各分野における研究の活性化。

- **交流:**

研究分野内外の人々との交流。



将来の共同研究の土台の形成。

講義 (講師名の敬称略):

- 素粒子論パート:

- 「超弦理論と量子重力」 磯 暁 (KEK)
- 「高次元ゲージ理論とゲージ階層性」 稲見 武夫 (中央大学)
- 「超対称性と階層性」 中野 博章 (新潟大学)

- 原子核パート:

- 「クォーク・ハドロン物理における
カイラル対称性」 保坂 淳 (RCNP)
- 「原子核の平均場と殻模型 – 現状と展望」 中田 仁 (千葉大学)
- 「中性子過剰エキゾチック核の構造」 中村 隆司 (東京工業大学)

- 高エネルギーパート:

- 「謎の粒子ニュートリノと物理」 原 俊雄 (神戸大)
- 「LEP から LHC そして JLC へエネルギー
フロンティア – 実験の夢と現実」 山下 了 (ICEPP)

- 夏の学校特別講演:

- 「標準模型以前の素粒子物理」 小林 誠 (KEK)

2001年度夏の学校の決算報告

● 収入:

前年度繰越金	2,782,408 円
基研援助(講師旅費)	484,640 円
基研援助(ポスター印刷費)	46,200 円
素粒子論グループ援助	450,000 円
学生からの参加費	873,000 円
合計	4,636,248 円

● 支出:

ポスター印刷費	46,200 円
旅費補助(講師)	484,640 円
旅費補助(学生)	1,000,620 円
夏の学校運営費	378,883 円
次年度繰越金	2,725,905 円
合計	4,636,248 円

2002年度夏の学校の予算案見込

● 収入:

前年度繰越金	2,700,000
基研(ポスター印刷費)	100,000
素粒子論グループ	0
参加費	900,000
合計	3,700,000

● 支出:

講師旅費	700,000
学生旅費補助	1,000,000
夏の学校運営費	300,000
次年度繰越金	1,700,000
合計	3,700,000

- 2001年度に基研より頂いた援助額は、
講師旅費50万円及びポスター印刷費10万円。
- 2002年度会計で、繰越金100万円を償却する予定。
- 繰越金の適正金額に関する、三者若手の総意の共通見解は、
100～150万円の範囲内。

基研に要望する援助

現在、原子核三者若手は2,725,905円の繰越金が存在。



2002年度は、ポスター印刷費10万円のための減額申請。

- 繰越金が適正規模に戻った際には、従来どおりの援助の再開をお願い致します。

(2001年度は、講師旅費50万円、ポスター印刷費10万円)

- これはあくまで原子核三者若手のみの事情であって、物性・天文若手には何の関係もありません。